

## 1 単元名 4. 私たちの国土と環境 1 さまざまな自然とくらし

## 2 目標

- (1) 自然環境から見て特色のある地域の様子に関心を持ち、国土の位置、地形、気候の概要について自ら進んで調べ、我が国の国土に対する愛情を持つ。(関心・意欲・態度)
- (2) 自然環境から見て特色のある地域の人々の生活や産業を捉えるとともに、国土の位置、地形、気候は相互に関連し地域ごとに特色があることを具体的に考えることができる。(社会的な思考・判断)
- (3) 各種資料を効果的に活用して調べ、自然環境から見て特色のある地域の様子や国土の自然、くらしについてまとめることができる。(技能・表現)
- (4) 自然環境から見て特色のある地域の人々は、生活や産業を工夫しながら環境に適応していることを理解し、国土の位置、地形、気候の概要と地域ごとの特色が具体的にわかる。(知識・理解)

## 3 指導にあたって

## (1) 教材観

本単元は、我が国「日本」の国土の地理的特徴や自然環境を捉えるとともに、その自然環境と人々の生活・産業の密接な関連を考えることを目標としている。

特に、地理的な特徴の学習では、基礎資料として地図帳を活用し、世界地理的な視野に立った日本の国土の捉え方の学習とともに、世界地図の見方や近隣諸国との位置関係についても学習を行うものである。また、環境と暮らしの関わりについては、沖縄県と北海道を例に挙げ、自然環境を生かした暮らしの工夫や知恵を学び、そこから、変化に富んだ気候とそれによって生まれる美しく特色ある我が国の自然環境に気付かせ、国土に対する興味関心や愛情を育てていくものであると考える。

## (2) 児童の実態(5年2組 26名)

## 【事前調査】ペーパーテスト形式(平成20年1月11日実施)

- 1 近隣諸国の位置と名称を答える。
  - ・ ロシア…正答6名, 誤答20名
  - ・ 北朝鮮…正答1名, 誤答25名
  - ・ 韓国…正答3名, 誤答23名
  - ・ モンゴル…正答1名, 誤答25名
  - ・ 中国…正答8名, 誤答18名
- 2 日本の国境を図示する … 正答10名, 誤答16名
- 3 沖縄に関して知っていること … 解答24名, 無答2名
  - ・ 気候に関して → 暑い・暖かい気候…14名, 台風の通り道である…3名
  - ・ 自然・環境に関して → 海がきれい…11名, 島, 面積が小さい, 夏～秋に雨量が多い 等
  - ・ 特産物について 他 → シーサー…10名, ゴーヤ…10名, サトウキビ, パイナップル, ハブ 等
- 4 北海道に関して知っていること … 解答23名, 無答3名
  - ・ 気候に関して → 寒い気候…13名, 雪が多い…8名, 一年中雪がある, 夏でも涼しい
  - ・ 自然・環境に関して → 牧場が多い…2名, 動物が多い, 流水が来る, 世界遺産がある 等
  - ・ 特産物について 他 → 海産物…5名, 乳製品…5名, メロン, ラーメン, トウモロコシ, ジャガイモ等
- 5 日本の地形の特徴について … 解答23名, 無答13名
  - ・ 山地がち…5名, 森林が多い…2名, 南北に山地が通っている, 川の下流に平地がある 等
- 6 日本の気候の特徴について … 解答22名, 無答4名
  - ・ 四季がある…11名, 梅雨がある…2名, 北は寒く南は暖かい…2名, 日本海側と太平洋側で気候が違う 等
- 7 その土地の特徴を知るためには何を調べたらよいか。 … 解答22名, 無答4名
  - ・ 特産物…12名, 歴史・伝統行事…6名, 気候…5名, 地形…4名, 位置・場所…3名, 人口…2名
  - ・ 方言…2名, 名所, 耕地面積, 虫, 産業 等

事前調査として、日本の国土とその特徴に関する基礎知識を調べるためのペーパーテストを実施した。問題は教科書、単元テスト等を参考に作成した。調査内容は、日本の近隣諸国に関すること、日本の国土に関すること、沖縄・北海道に関すること、日本の地形や気候の特徴、調べ学習を行うためのポイントなどについて、記述を中心として行った。

その結果、全般的な児童の傾向として、近隣諸国や日本の国土に関する知識はあまり持っていないと考えられ、持っていたとしてもそれぞれの名称を知っている程度で、内容や知識の結びつきに関してはできていない児童が多いと考えられる。また、沖縄や北海道に関して知っていることを見ても、一般によくいわれていることに加え、先入観で捉えられていると推測できる内容を答えている児童が見られている。

(3) 指導観

本単元では、日本の国土やその広がりや地理的な視点から学習し、さらに沖縄県や北海道を例に挙げ、気候や産業、環境、自然などの特色を学習することによって、変化に富んだ日本の自然環境と人々の生活の結びつきや国土に関する理解や関心を深めていくことが重要であると考える。そこで、本単元の学習では上記のような内容について学習していくとともに、その内容や学習で得た知識を日本全国各地に広げ、一人一都道府県を分担し、これを調べたりまとめたりしていく活動を通して、日本の国土に関する知識を広げ、一層、興味・関心を高めていきたいと考える。

この調べ学習の際に、学習した成果を共有していくためのツールとして、インターネット上の「wiki」を活用し、学習した内容を集約したり、確認したりする場として利用する。このサービスはインターネット接続ができれば、時間や場所の制約を受けずに学習を進めることができるので、学習の場を家庭にも広げ、保護者からも意見や助言、援助を得られるようにするとともに、県内の他地区の小学校（行方市立小高小学校）との協働学習を設定し、児童の学習意欲の向上や学習した内容を表現する力を高めていきたいと考える。

また、児童一人一人の調べ学習の内容や単元全体の学習内容を関連性を持ったものとして扱っていきけるように「wiki」に学習内容をまとめることによって、いつでも振り返って学習できるように環境を整え、児童の実態で見られた知識の結びつきの弱さを改善していく一助としていきたいと考える。さらに、一部インターネット上の作業になるので、公開の可能性も考慮し、著作権や情報モラル等の内容に配慮するとともに、児童が自ら考えて情報を活用していきけるよう指導していきたい。

4 指導計画（10時間扱い）

次	時	学習活動	評価の観点
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の国土を世界地図や周辺の地図から捉え、位置的な表し方を知る。</li> <li>日本の国土の広がりを東西南北のそれぞれ端を確認することでつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の国土の位置、地形、気候の概要などの特色について意欲的に調べ、国土に対して愛情をもつことができる。（関心・意欲）</li> <li>日本の国土の位置、広がりを理解するとともに、その表し方を理解できる。（知識・理解）</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県についての理解の確認をする。</li> <li>調べ学習の分担となる都道府県の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県の所在を知り、これからの調べ学習に対する意欲を持つことができる。（関心・意欲）</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の最南、最北の県の特長を知ることから、日本の国土の広がりを考えるとともに、各都道府県を調べるための観点を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候条件から見て特色ある地域の人々の生活や産業、くらしの様子について、相互に関連づけて具体的に考えることができる。（社会的な思考・判断）</li> <li>自然条件から見て特色ある地域の人々が生活や産業を工夫しながら自然環境に適応していることを具体的に理解できる。（知識・理解）</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働学習する学校とテレビ会議を通して一人1都道府県の分担を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる分担を確認し、学習活動の見通しを立てることができる。（関心・意欲）</li> </ul>
	5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人1都道府県を受け持つ、項目に沿って調べ学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に多くの情報や資料の中から、必要なことを的確に取り出し、調べ活動を行うことができる。（技能・表現）</li> </ul>
	7 ⑧ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かったことをwikiにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことを自分の言葉でわかりやすく作品にまとめたり、比較したり関連づけたりすることができる。（技能・表現）</li> </ul>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>wikiから都道府県の各特長についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土の位置、地形、気候は関連し、地域ごとに違いや特色があることを具体的に考えることができる。（社会的な思考・判断）</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>wikiの情報から日本の気候分布やその特長を調べ、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土の位置、地形、気候は関連し、地域ごとに違いや特色があることを具体的に理解できる。（知識・理解）</li> </ul>

5 本時の指導

(1) 本時の目標

各都道府県について、調べた内容を項目ごとにwiki上に記述し、学習の成果をまとめる活動を通して、その内容について確認し理解を深めるとともに、わかりやすく表現するための能力を養う。

(2) 準備・資料

PC, プロジェクター

みんなのちから@ういき ([http://www31.atwiki.jp/ken\\_m/](http://www31.atwiki.jp/ken_m/))

(3) 展開

児童の活動および反応	教師の活動 (◎ 工夫点 (評) 評価)
<p>1 前時までの学習内容を振り返る。</p> <p>2 本時の学習目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習した内容を自分の言葉でwikiにまとめよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的な時間から</li> <li>・ 内容的な側面から</li> <li>・ 本時の時間配分について</li> </ul> <p>3 各自の作業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べる (文献, インターネット, 取材)</li> <li>・ 記録する (ノート)</li> <li>・ まとめる (掲載する文を考える)</li> <li>・ wikiに入力する</li> <li>・ 再編集・確認する</li> </ul> <p>4 本時の学習内容について、共有化を図る。</p> <p>① 個人閲覧</p> <p>② 発表</p> <p>5 次時の目標について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習を振り返りながら、良い内容の書き込みなどの例を挙げ、本時の学習意欲の向上や内容のレベルアップを図る。</li> <li>・ 継続的な作業を行っていくなかで、一時間ごとの進行状況の目安を与えていく。</li> <li>・ 本時がwikiへの書き込みの最後の時間になるので、時間内に終わるように目立てをつけさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べ、記入する項目は、学習時間、まとめる時間を考え、4つの点に絞る。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地形の特長</li> <li>② 気候の特長</li> <li>③ おもな産業</li> <li>④ その他の特長</li> </ul> </li> <li>・ 以下の点について、机間指導しながら確認を行う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 内容面の確認</li> <li>2) 操作面の確認</li> <li>3) 活動場所の確認</li> <li>4) 著作及び引用やモラルに関する確認</li> </ul> </li> </ul> <p>(評) 調べた内容をわかりやすく自分の言葉でまとめることができたか。(作品)</p> <p>◎wiki内に更新情報を表示できるようにし、それを中心に閲覧できるように設定し効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画面構成上、良い点があった児童を1～2名選び、画面提示をしながら、工夫した点について発表させることにより、良い表現の仕方を共有できるようにする。</li> <li>・ 書き込みが終わっていない児童に対して、休み時間等の時間を有効に使うように指示する。</li> </ul>

# ウィキ (Wiki)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

取得日 2008/01/18

ウィキ (Wiki) あるいはウィキウィキ (WikiWiki) とは、ウェブブラウザを利用してWebサーバ上のハイパーテキスト文書を書き換えるシステムの一つである。このシステムに使われるソフトウェア自体や、このシステムを利用して作成された文書群自体を指してウィキと呼ぶこともある。ウィキウィキはハワイ語で「速い」を意味し、ウィキのページの作成更新の迅速なことを表している。

## ○ 用途

ウィキでは通常、誰でも、ネットワーク上のどこからでも、文書の書き換えができるようになっているので、共同作業で文書を作成するのに向いている。この特徴から、ウィキはコラボレーションツールやグループウェアであるとも評される。

また、WWWサーバを用いずにウィキを実現し、個人のメモなどとして手軽に利用できるようにしたシステムをローカルウィキという。

## ○ 主な特徴

多くのウィキに共通する特徴を、以下に掲げる。

- ・ ネットワーク上のどこからでも、いつでも、誰でも、文書を書き換えて保存することができる。
- ・ 文書の書き換えに最低限必要なツールはウェブブラウザのみである。
- ・ ウィキ特有の文書マークアップはHTMLなどと比べて簡潔なので覚えやすい。
- ・ 同じウィキ内の文書間にリンクが張りやすくなっており、個々の文書が高度に連携した文書群を作成しやすい。
- ・ 大抵は、変更の事前許可を必要とせず、ウィキのあるサーバに接続できる人に開かれている。実際、ユーザアカウントの登録を必要としていないところも多い。

HTML自体は高機能で、豊富な種類の要素を複雑に入れ子（コンピュータのプログラムにおいて、なんらかの構造の中に別の構造がすっぽりと収まっている状態のこと）にしたり、見栄えを調整するスタイルシートなどを埋め込んだりすることもできる。一般的なウィキにおいては、むしろこれらの機能を制限することによって、文書の作成・編集を容易にするとともに、個々のユーザーがスタイルを埋め込んでしまい全体としての一貫性が崩れるという危険性を回避している。また同時に、文書の見栄えではなく肝心の内容のほうへユーザーの注意を集中させるという効果も狙っている。

## ○ 変更の管理

一般にウィキは「間違いをおかしくくするのではなく間違いを直しやすくする」という哲学に従っている。そのため、ウィキは非常にオープンである一方で、ページの内容に関する最近の変更の妥当性を検証するための手段を備えている。

## ○ 歴史

ウィキのソフトウェアは、デザインパターンの共同体で、パターン言語を書くために創られた。1995年にワード・カニンガムが確立したPortland Pattern Repositoryが初のウィキだった。カニンガムは、ウィキの概念を発明し名付け、ウィキエンジンを初めて製作した。元々のウィキだけが、ウィキ（先頭が大文字のWiki）あるいはウィキウィキウェブと呼ばれるべきだと主張する人もいる。カニンガムのウィキ(Wards Wiki)はいまだに、最も人気のあるウィキサイトの一つである。

20世紀の最後の数年に、ウィキは非公開・公開のナレッジベース（知識の基地）を開発するのに有望な技術であるということが、ますます認知されるようになった。そしてこの潜在能力は、Nupedia という百科事典プロジェクトの開祖ジンボ・ウェールズとラリー・サンガーに、ウィキ技術を電子百科事典の基礎に使おうというひらめきを与えた。こうしてウィキペディアは、2001年の1月に始まった。初めはそれはUseModソフトウェアを基にしていたが、後にいくつかの他のウィキから取り込まれた独自のオープンソースのコード基盤に切り替えられた。